

本稿は [Linux Japan 誌](#) 1999 年 11 月号に掲載された記事に補筆修正したものです。

CUI ばんざい

筆者の研究室では、公式には Linux しか稼働させていません。FAX を含めて書類は L^AT_EX，図面は Tgif と Gnuplot で書いていて、理系の技術論文や教材を書く上で何の不便も感じません。メールに添付された MS-Word ファイルを MS-DOS フォーマットのフロッピーに落して、学科の共通実験室にある NT マシンまで運び、読むのが唯一の不便でした。それも今では MSWordView があって楽になるようです（敢えてインストールしてません）。まあ、極右の Linux 原理主義を貫こうとするなら、不便こそ開発の父と考え、敢えて甘受する覚悟でいます。これらのツールはそれぞれ異なるレベルのインターフェースを持っています。gnuplot はスクリプトファイルを編集してバッチ処理的に使うのが多いのですが、基本的には対話形式で処理を逐次実行させていきます。L^AT_EX に関しては、ソースファイルを編集するのに Mule を使いますから、慶応大学の広瀬雄二 (yuuji@gentei.org) 氏による L^AT_EX 支援環境 YaTeX [1][W³] こと『野鳥』を使って快適に書き上げます。Tgif は図形作成なので GUI ベースですが、ショートカットキーを多用して素早く操作してます。なんとなくキーボードで操作しようとしてしまうのです。もっとも X の窓は主としてマウスで操作してますから、この夏流行りの（流行ったのかなあ？）『テキトー』と言われればその通りで、返す言葉もありません。

単に馴の問題かもしれませんが、強いていえばやりたい事をコマンドあるいはコマンドの組合せで実現しようとする癖を忘れないようにしようということでしょうか。これはプログラミングを趣味とする（昔気質な）者の基本的な態度のような気がしています。最後は、C の関数（ボタンじゃないよ文字ですよっと）を並べてソースをつくるのですから...

結局、ソースあるいは平テキストを読んだり書いたりするのにあまり GUI は必要ないので、そのままでも過ごしています。今回は、『CUI 万歳』ということで、見た目は地味でも十分な機能を持つツールをいくつか紹介しようと思います。

ファイラー

ファイル进行操作するコマンド

UNIX にはファイルやディレクトリを操作するコマンドが多数存在します。誰でも通常使うのは、cp, rm, mv, cd, mkdir, mkdirhier, rmdir などでしょう。これらのコマンドはファイルの所在（パス）を指定する必要があります。ファイルの所在を調べるのに、ls <directory> を繰り返す（結構そうだったりして (^_^;) というのは芸がないですから、普通 which や find を使うことになるでしょう。しかし、Linux なら GNU の locate でもっとずーと素早い検索が可能です。ただし、ファイル名のデータベースを定期的に更新しなければいけません。root 権限で、

```
crontab -l
```

として、次のように、updatedb が実行されるようになっているか確かめてください（この例では、毎朝 4:40 に更新します）。

```
40 04 * * * updatedb 1> /dev/null 2> /dev/null
```

もしこのような記述がなければ、

```
crontab -e
```

で編集しましょう。エディタは環境変数 VISUAL で指定できます。デフォルトは /usr/bin/vi となっており、Sysadmin はやはり vi を使うことが日常的に要求されるということですね。

作成したばかりのファイルをデータベースに反映させたいければ updatedb コマンドをその場で実行します。その際、マウントされた CD-ROM 等があるとデータベースの更新に大変時間がかかります。そこで、それを対象から外すにはオプションで --prunepaths=' /cdrom /tmp /usr/tmp' などとして、/tmp などと共に除外するマウントポイントを明示的に指定します。更新されるデータベースファイルがどこにあるかは、

```
locate locate
```

として探してみてください。

FDclone for UNIX

複数のファイルを間違いなく一辺に消去したい場合、コマンドラインは不便です。やはり、対象となるファイルを選択して確認してから消去したいものです。一覧からファイルを選択していろいろな操作を施す機能を持つツールは、コマンドに不慣れな初心者には頼もし

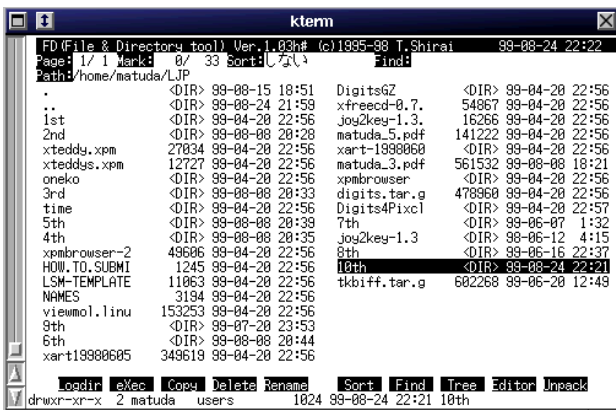


図 1 シンプルで強力なファイル操作ツール fd

い味方です。MS-DOS 時代に誰もが愛用した逸品 FD を目指して UNIX 上で白井隆 (shirai@nintendo.co.jp) 氏が開発を続けているのが FDclone [2] [W³] です。基本は、ファイル一覧からカーソルを使って移動をし、スペースキーでマークを付けて選択状態にし、ファンクションキーなどに割り当てられたコマンドを実行するというものです。f5 の Rename や f10 の Unpack は理解しやすい機能名なので、便利でしょう。初期設定はユーザーのホームにある ‘.fdrc’ で行います。実行時には [?] で簡単なヘルプが表示されますから、通常の用途では迷うこともないでしょう。ファイル数が多いときには、[3]キーで 3 列表示になりますから、全体を見渡せます。

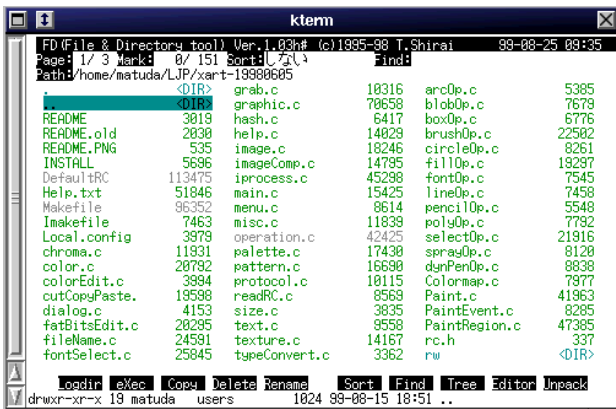


図 2 3 列表示すると全体を見渡せる

mc [3][W³]

国産の fd がテキスト端末に留まっているのに対して、現在 GNU プロジェクトに入った GNOME の mc (midnight commander) は Tcl/Tk や GTK を使って

GUI 化を試みている最中です。起動時に左右に別れてディレクトリを表示するので、パスの離れたディレクトリ間でのファイルの移動には重宝します。

メールクライアント

mail や mailx はメールを読むだけなら今でも十分使えます。が、振り分けや日本語で返信となるとやや不便な面があり、結局他のツールの世話になります。

MH

MH(Message Handler) は一連のコマンド郡の総称で、例によって一冊の分厚い本が出版される程の機能と(複雑さ)を提供してくれます。しかし、基本的には inc, show, scan, next, prev, rmm, folder, orefile 位覚えていけばメールを読んで整理するには十分でしょう。一つ一つのコマンドは軽いので、telnet で外からホストに入ってメールを読むにもってこいです。しかし、日本語で返信を書くのはやはり結構面倒です。MH ではホームに Mail という名前のディレクトリが作られ、その下に inbox を始めとしてフォルダーディレクトリが作成され、メールが一通ずつ番号を付けて保存されます。

注意しないといけないのは、rmm コマンドではファイルは完全には消去されないということです。フォルダーに含まれるカンマで始まる(番号)ファイル、<num> を rm で完全に消去します。これをしないといつのまにか、ファイルが溜ってしまいます。なお、設定ファイルはホームに作成される .mh_profile です。

mnews [4]

コマンドラインでメールを書くのが面倒なので、裏で MH を使って使いやすいインターフェースを提供してくれるテキストベースのツールは嬉しいです。宅間頭 (takuma@msr.mei.co.jp) 氏の開発による mnews は元来 news リーダーなのですが、

```
mnews -m
```

により、図 3 のようにメールモードで起動できます。MH の他にも mail や (emacs)rmail にも対応していますが、ここは迷わず MH としましょう。

MH をスペースキーで選択すると、一般には inbox フォルダのメール一覧画面になります(図 4)。そこで、カーソルを移動しスペースキーを押せばそのカー



図 3 mnews をメールモードで立ち上げた場合の初期画面



図 4 mnews : フォルダーにあるメールの一覧画面

ソル行のメールが表示されるという(図5),とても直観的な操作でメールが読めます.また,順番にメールを読む場合はスペースキーを押すだけで済みます.



図 5 mnews : メールを表示しているところ

いろいろな場面でエスケープするのは [q] キーを使います. 判らなくなったら, [?] キーでヘルプが表示されます(図6)から安心です.

また, MIME にも対応していて, plamo ではインストール時に小島さんからの MIME メールが届いていますから(図7),是非,ペンギンを眺めてください.

メール一覧画面では @ が印刷コマンドです. 単に lpr に渡すと,ほとんどヘッダー部分のみという結果になってしまう場合があるので,筆者はリスト1に示すよう,重要なヘッダー部分のみを残す印刷用シェル+awk スクリプト(mnews1pr)を使っています.

リスト1 /usr/local/bin/mnews1pr

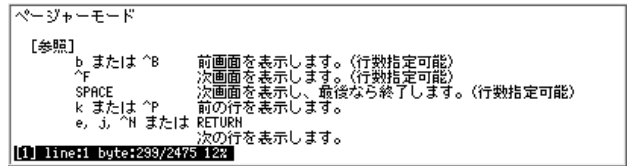
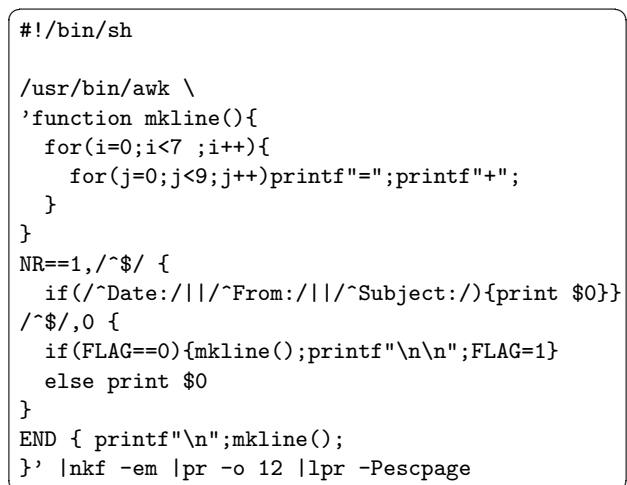


図 6 mnews ではヘルプが充実している



図 7 もちろん MIME にも対応している



ただし, lpr で日本語の平テキストが印刷できる環境が出来上がっているものとします(どんな文書も ps ファイルに変換して印字というポリシーなら, a2ps を途中にかませればいいです.自由自在, as you like it.).筆者のところでは EPSON の lp1000 を使っているので, -Pescpage と指定すると, Vine Linux で有名な, はねひでや氏の作成されたフィルタ escpagef を使う設定になっています. pr -o 12 は左側の印刷マージンを与えるためのものです. mkline() はルーラーを印字する関数ですが, 横線だけのシンプルなものが好みの方もいらっしゃるでしょう. プリンター出力とは少し異なりますが, つぎのような印字結果が得られます. 無駄な印字はしないようにと学生には注意していますが, やはり紙に残したい場合がありますね. 安心ですし.

```
Date: Mon, 23 Aug 1999 21:07:51 +0900
From: Namio MATUDA <matuda@mobio>
Subject: 日本語
=====+=====+=====+=====+=====
Mnews から印刷された様子です。シンプルな構成。
ルーラーは何の役にたつのでしょうか(^_^);
=====+=====+=====+=====+=====
```

WWW ブラウザー

メールの次は、当然 WWW です。Netscape があまりにも良くできていて、これで決まりという声もありますが、やはり大食らいである感は否めません。486DX66 マシン（今時そんなスクラップやといわんといて、貧乏研究室じゃまだ現役のともあるんやで）などでは、起動がめっちゃ遅です。絵やデザインも重要でしょうが、『CUI 万歳』にとっては文章が最も重要な中身です。そこで、さくっと立ち上がるテキストベースの WWW ブラウザーもたまには使ってみましょう。

lynx [5] **W**³

テキストベースの WWW ブラウザーと問われて、誰もが名前をあげるのは Lynx でしょう。情報発信を、飾りだけの画像をゴタゴタ並べると勘違いしている風潮に対する強力なアンチテーゼとして登場し、今もその主張を貫いているところに感心します。全体の動作は非常に細かいところまで /usr/local/lib/lynx.cfg で設定することができます。また、実行時にも **O** キーにより項目は少ないですが設定モードが現れます。ところで、デフォルトでは画像へのリンクは無視されます（おみごと（^^））が、設定ファイル中で MAKE_LINKS_FOR_ALL:TRUE とするか起動時にオプション-image_links（トグル切替）を指定すれば、外部ツールに渡して画像を表示することが可能になります。

w3m [6] **W**³

作者の伊藤彰則 (aito@ei5sun.yz.yamagata-u.ac.jp) 氏は w3m のことを、README のなかで WWW ブラウザーではなく、WWW 対応のページャーであると述べています。が、lynx よりも軽くて table も表示可能である点を含めて立派な WWW ブラウザーといえます。

キーバインドは lynx とは違うのですが、**H** でヘル

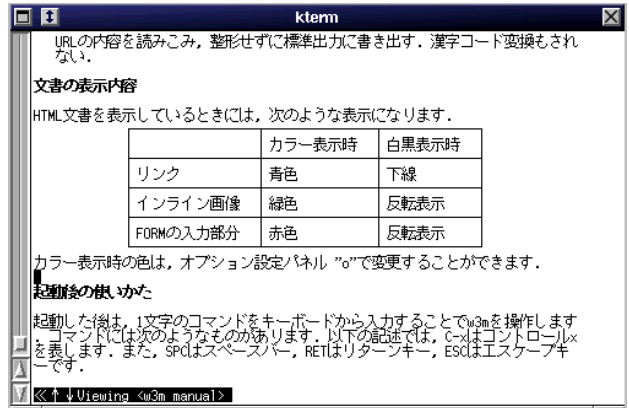


図 8 w3m:table に対応したテキストベースの軽い WWW ブラウザー

プを見るか（図 9）、**I** でメニューを出せば基本的な閲覧に困ることはありません。



図 9 **H** キーで詳しいヘルプが表示される

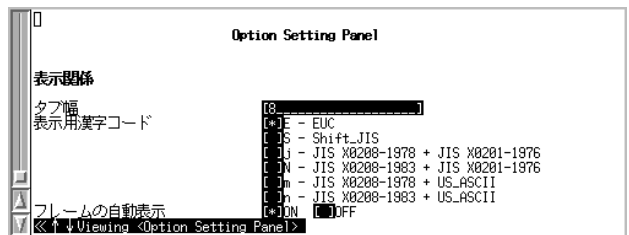


図 10 **O** キーで設定モードに移る

また、デフォルトではもちろん画像を表示しません。必要なら **I** キーを押せば指定された外部ビューアーを使って鑑賞できます。互換性を重視して table を使ってはいかんと主張すべきかもしれませんが、ここまで普及してしまうと反対しても無駄でしょう。設定ファイルはホームにできる ~/.w3m/config です。lynx と同様に実行時に **O** キーにより、設定を呼び出すこともできます（図 10）。

Emacs

ここまで話をすすめて来て、何か忘れちゃいませんかという感じがします。そう『Emacs』なら、できないことは何もないといえます。ファイラー用途には dired、メール用途なら今流行の mew や mh-rmail、WWW 用途なら w3 と十分な機能を提供する環境が揃っているのです。しかし、Emacs(Mule) はかなり重量級でして、端末エミュレータ上で直接動く軽量ツールという分類には入らないので... (いんにゃ、オプション -nw をつければ別窓を開かないではなかるかと主張されるかもしれませんが)、それに解説書が巷に溢れているので、ここは一つご勘弁の程を。

次回は

『CUI 万歳』を唱えて、ここまで時代に逆らったなら開き直りです。貧相『コマンドライン生活』を披露するしかありません。基本コマンドを動かしてみると UNIX が理解できるような気がするというのが、唯一の根拠です。

参考文献

- [1] 「野鳥」(Yet Another TeX mode for Emacs) の公式サイト . [W³](http://www.yatex.org)
<http://www.yatex.org>
- [2] テキストベースのファイラー FD のサイト . [W³](http://hp.vector.co.jp/authors/VA012337/soft/fd/index.html)
<http://hp.vector.co.jp/authors/VA012337/soft/fd/index.html>
- [3] Midnight Commander は GNU のプロジェクトになりました . そこから GNOME の公式サイトにリンクがはってあります . [W³](http://www.gnome.org/projects/mc)
<http://www.gnome.org/projects/mc>
- [4] 筆者愛用の Mnews ですが、最新版の公開は Net News に流れるだけで、ホームページで公開されてはいないようです . プライマリな配布サイトをご存じの方、是非お教えてください .
- [5] Lynx の公式サイト . Lynx らしく簡素なページ (^^; [W³](http://lynx.browser.org/)
<http://lynx.browser.org/>

- [6] W3m のページ . [W³](http://ei5nazha.yz.yamagata-u.ac.jp/~aito/w3m/)
<http://ei5nazha.yz.yamagata-u.ac.jp/~aito/w3m/>